

中学歴史プリント（書き取り）

弥生時代

名前

得点

/20

- 問1 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
- 問2 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？
- 問3 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？
- 問4 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？
- 問5 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
- 問6 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
- 問7 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
- 問8 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
- 問9 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？
- 問10 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？
- 問11 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 問12 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
- 問13 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？
- 問14 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？
- 問15 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？
- 問16 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
- 問17 江戸時代に金印が発見されたと伝えられている、現在の福岡県にある島は何という？
- 問18 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
- 問19 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？
- 問20 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問2	答え 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問3	答え 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐって激しく争いました。
問4	答え 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問5	答え ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問6	答え 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問7	答え ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問8	答え 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で铸造された銅鏡で、高い铸造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問9	答え 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問10	答え 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問11	答え 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問12	答え 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問13	答え 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問14	答え 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問15	答え 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問16	答え 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに铸造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭祀や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問17	答え 志賀島	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。金印には「漢委奴国王」という文字が刻まれており、これがかつて中国の皇帝から授けられたものと結びつけられました。
問18	答え 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問19	答え 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問20	答え 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。